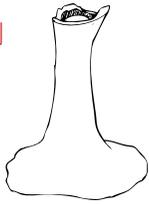


もつき
木器

弥生時代には、今よりもっと多くの木の道具が使われていました。
木で作られた道具のことを「木器」とよんでいます。

☆ 展示してある木器の中から、下の左の絵のものを探してみよう。また、右の絵は左の道具を使っているようすです。同じものを選んで線を結んでみよう。

「食物を盛る器」
「高杯」



「叩く道具」「木槌」



「刃先まで木でできた土
掘り具」「広鋤」



「液体をくむ柄のついた道具」
「柄勺」

※これは作っているときゅう
ものだね。



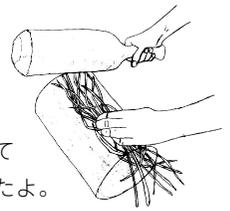
水などをくむのに
使っていたよ。



畑を耕したりするのに
使っていたよ。

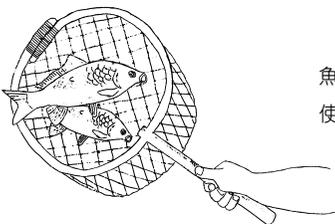


食べ物をのせていたよ。

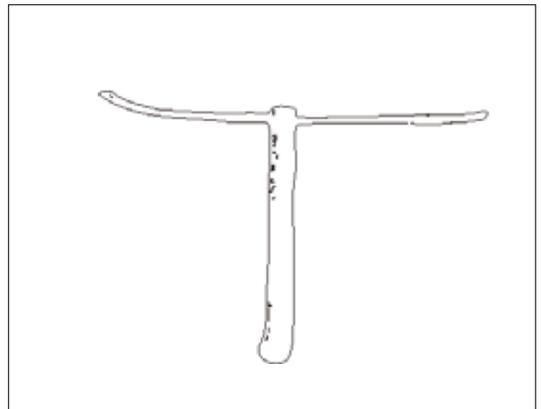


わらなどをたたいて
やわらかくしていたよ。

☆ 下の図のように使っていた木器は
どれかな。展示してある木器の中
から探して□に絵を描いてみよう。



魚とりなどに
使っていたよ。



「魚をすくう手持ちの網の枠」「手網の枠」

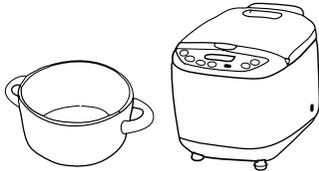
どき 土器

ねんどを焼いて作ったようきのことを「どき」とよんでいます。やよい時代のどきは、お皿みたいに食べ物を盛りつける以外に、調理や貯蔵などに使われていました。

☆ かべにならんだどきの中から、次の説明にあうものを見つけて □ の中に絵を描いてみよう。

「煮炊きを使う鍋」や「甕」と紹介されている土器を描いていけば正解。また、中身が取り出しやすいように縁が広がっている形であれば正解。

1. 食べ物を煮たり、米を炊いたりするのに使ったどき。今の鍋や炊飯ジャーと同じように、中のものが取り出しやすい形をしているよ。



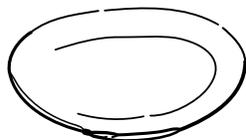
2. 食べ物や飲み物を貯えるのに使ったどき。今のペットボトルやビンと同じで、中の物がこぼれないように一部がせまくなっているよ。



「貯蔵用の壺」や「壺」と紹介されている土器を描いていけば正解。また、くびの部分が絞まって、中身がこぼれにくい形でも正解。



3. 食べ物を盛りつけたどき。今の皿と同じ使い方だけれど、形が違って、脚がついて高くなっているよ。



「食物を盛る脚つきの器」や「高杯」と紹介されている土器を描いていけば正解。

